

SAICMに対する 化学産業界の対応

第17回 化学物質と環境円卓会議
2006年2月21日

(社)日本化学工業協会
豊田耕二



1

SAICMに対するICCA*/日化協の対応

(*国際化学工業協会協議会)



[SAICMに対する認識]

歓迎 SAICMは '02年世界サミットでの目標実現へのロードマップ

[ICCAの対応]

レスポンシブル・ケア(RC)活動の貢献は、世界サミットやドバイ宣言で高い評価

→ RC活動はSAICMの方向性と整合

RCの更なる充実化に「**RC世界憲章**」を制定

グローバルな活動強化、化学物質管理の充実、

発展途上国へのCapacity Building <能力向上> 支援を強化・発展

[日化協の対応]

ICCAの対応に賛同し、支持・協力

日本政府との連携の下、

新たなRC活動を推進、アジア諸国への<能力向上>を更に強化・発展

2

レスポンシブル・ケアとは



- ・化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ライフサイクルにおいて、
- ・企業が自主的に環境・安全・健康を確保し、
- ・その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う取組み



「RC精神」とは、環境・安全・健康・品質について、企業自らの責任で取組み、広く社会に対して責任を果たすことの約束である。

3

レスポンシブル・ケア(RC)の歩み

[活動]

- 1985年 ・カナダで誕生
- 1990年 ・ICCA設立
グローバル化の始まり
- 1992年
- 1995年 ・日化協 RC活動開始
- 2002年
- 2004年 ・ICCA RC世界憲章を制定
- 2005年 ・日化協 RC世界憲章を承認
- 2006年 ・RC世界憲章を公式発表

[外部の評価]

- ・地球サミット
RCの実施を推奨
- ・世界サミット
模範的自主活動として高く評価
- ・ドバイ宣言
RC活動を認知



4

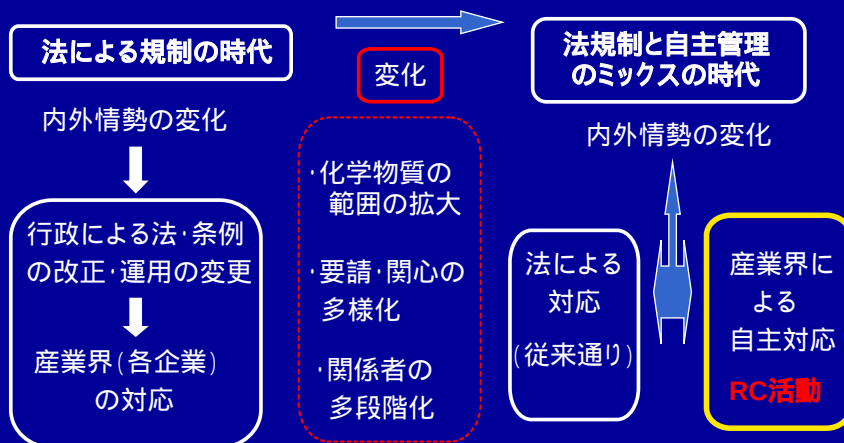
化学産業界の 化学物質管理に対する基本的考え方

- 科学的なリスク評価に基づいて行うべき
 - 健康や環境への影響の評価
 - 有害性のみではなく暴露を含めたリスクの概念の導入
 - 化学製品のライフサイクルの考慮
 - リスク/ベネフィットの考慮
- 法規制と自主管理のベスト・ミックス
 - 法規制と自主取り組みのバランス
 - 化学物質管理は一律の規制ではなく、個別の物質毎の自主管理が効果的



5

法規制と自主管理



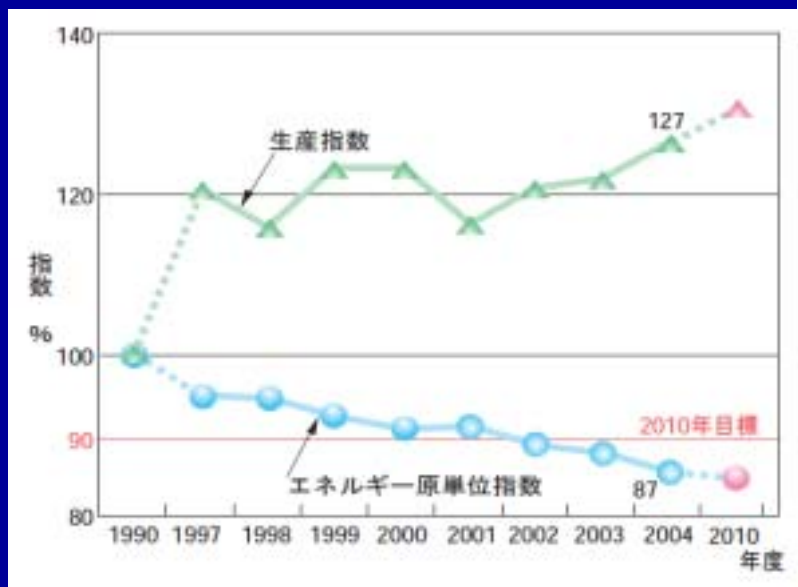
6

日本赤十字社

継続的改善活動 コミュニケーション活動 検証活動 国際活動

レスポンス・ブレイク

継続的改善事例： エネルギー原単位指数、生産指数の推移と見通し



9

対話の推進



地域対話 全国15地区



四日市地区



川崎地区

市民対話 東京・大阪



消費者対話



学生対話



10

国際活動



- 官民連携によるアジア諸国への<能力向上>支援推進
 - ・経済産業省の指導の下、アジア諸国へRC活動及びGHS活動の普及支援を積極推進
タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシアなど
 - ・AOTS(海外技術者研修協会)事業支援推進
海外研修生受入れ
- 国際協調
 - ・ICCA・RCリーダーシップグループ(52ヶ国加盟)へ積極参加、協力

11

SAICMに対する日化協の具体的対応

RC世界憲章(RCGC)の承認('05年5月)



新たな「環境・安全に関する日化協基本方針」を制定('05年9月)



RCGCの浸透
具体的方策の策定

RC活動 新中期計画('06-08年)を策定・承認('05年11月)
、 、 を国内公式発表(於:RC活動10周年記念行事)

今後、新中期計画の着実な実行に努める



12

「レスポンシブル・ケア 世界憲章(RCGC)」

要旨:

1. RC基本原則(各協会共通の行動指針)の採用
2. 各国におけるRCプログラムの基本要件の実践(例:ロゴ使用等)
3. 「持続可能な発展」の推進
4. 継続的な成果の改善と公表
5. グローバルな化学物質管理の強化
6. 化学産業のサプライチェーンにおけるRCの普及と促進
7. 説明責任を果たす為、ICCAが推進するグローバルな管理活動の強化に対する支持と協力
8. 広く内外のステークホルダーの期待に応える為、地域、国及び世界的規模の対話活動を更に拡大
9. RCを効果的に実施する為の適切な資源の提供



13

RCGC中の化学物質管理方策

- ・化学物質管理に関するガイドラインの開発
- ・リスク評価及びリスク管理の実行
- ・サプライチェーン業界と化学物質管理に関する共同関係の構築
- ・国際政府間組織とのパートナーシップ
OECD, UNEP, WHOなど
- ・公共への化学物質管理情報提供のプロセス開発



14

日化協 RC活動 新中期計画('06-08年)

方針:新「環境・安全に関する日化協基本方針」に
則り、RC世界憲章の浸透に努める

重点推進事項:

1. 化学物質管理の一層の強化
2. アジア諸国への<能力向上>支援の推進
3. RC活動の継続的な改善と普及
4. 検証活動の充実による説明責任の遂行
5. RC活動の社会に対する認知度の更なる向上



15

化学産業界の自主的取組み (例)

- HPV (高生産量化学物質) の有害性データ収集
 - OECD / ICCA HPV Initiative 1998年 ~
 - ジャパン・チャレンジ・プログラム 2005年 ~
- GHSの普及
 - 分類マニュアル作成など
 - 発展途上国への<能力向上>支援
- サプライチェーン業界への対応
 - 自動車業界
 - 電気・電子業界



16

化学産業界とサプライチェーン間の 情報共有化への対応

[自動車業界]

1. 国際的なシステム共通化への参加

GASG (Global Automobile Stakeholder group)

- ・日米欧3極の自動車、部品、化学/プラスチック業界連携
- ・自動車業界の管理物質の決定と管理
- ・日本の自動車、部品、化学企業(日化協/プラ処理協)参加

2. 国内の仕組み

- ・自動車工業会に対応チーム編成
- ・自動車、部品、化学企業協力

[電気・電子業界]

- ・日化協含有情報提供システムの提供
- ・国際的な仕組み構築の支援(物質分析法)
- ・報告フォーマット、管理物質の共通化支援
- ・中小事業者への情報提供

17

ご清聴、有難うございました



18